

HANDS

Kokura Memorial Hospital

88

2022



いつもの暮らしに、いつものあなた

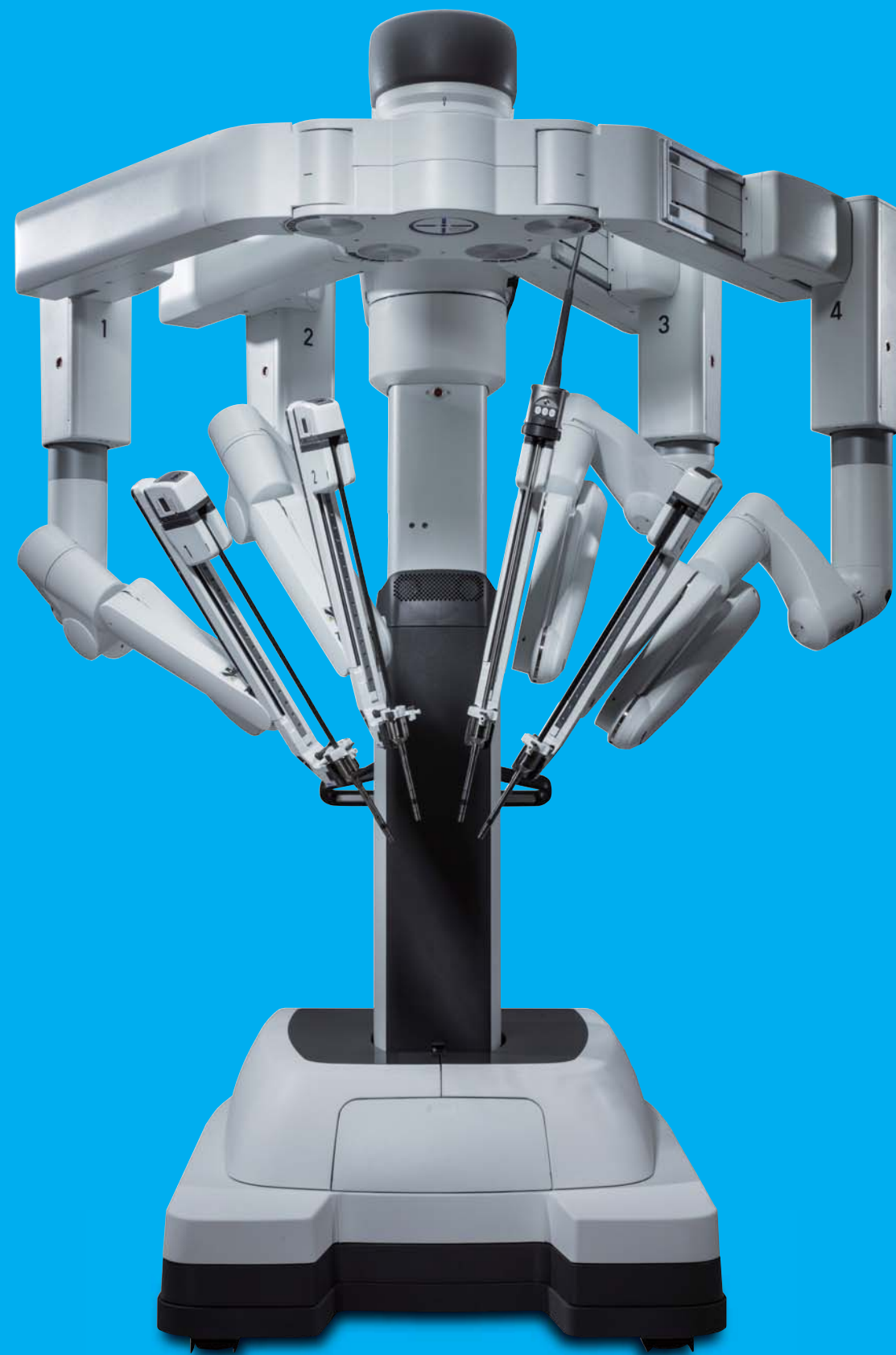
小倉記念病院

〒802-8555 北九州市小倉北区浅野3丁目2番1号 TEL.093-511-2000(代表) [小倉記念病院](#) [検索](#)

TEL.093-511-2062(医療連携課) FAX.0120-020-027(医療連携課) FAX.093-511-2032(救急室) 夜間・休日における救急患者の情報のみ

【表紙】

2020年9月に導入した手術支援ロボット「ダヴィンチ」ですが、現在では前立腺がん、腎臓がん、胃がんだけでなく、肝がん、結腸・直腸がん、肺がんとダヴィンチを用いて行うロボット支援下手術のラインナップが拡充しています。

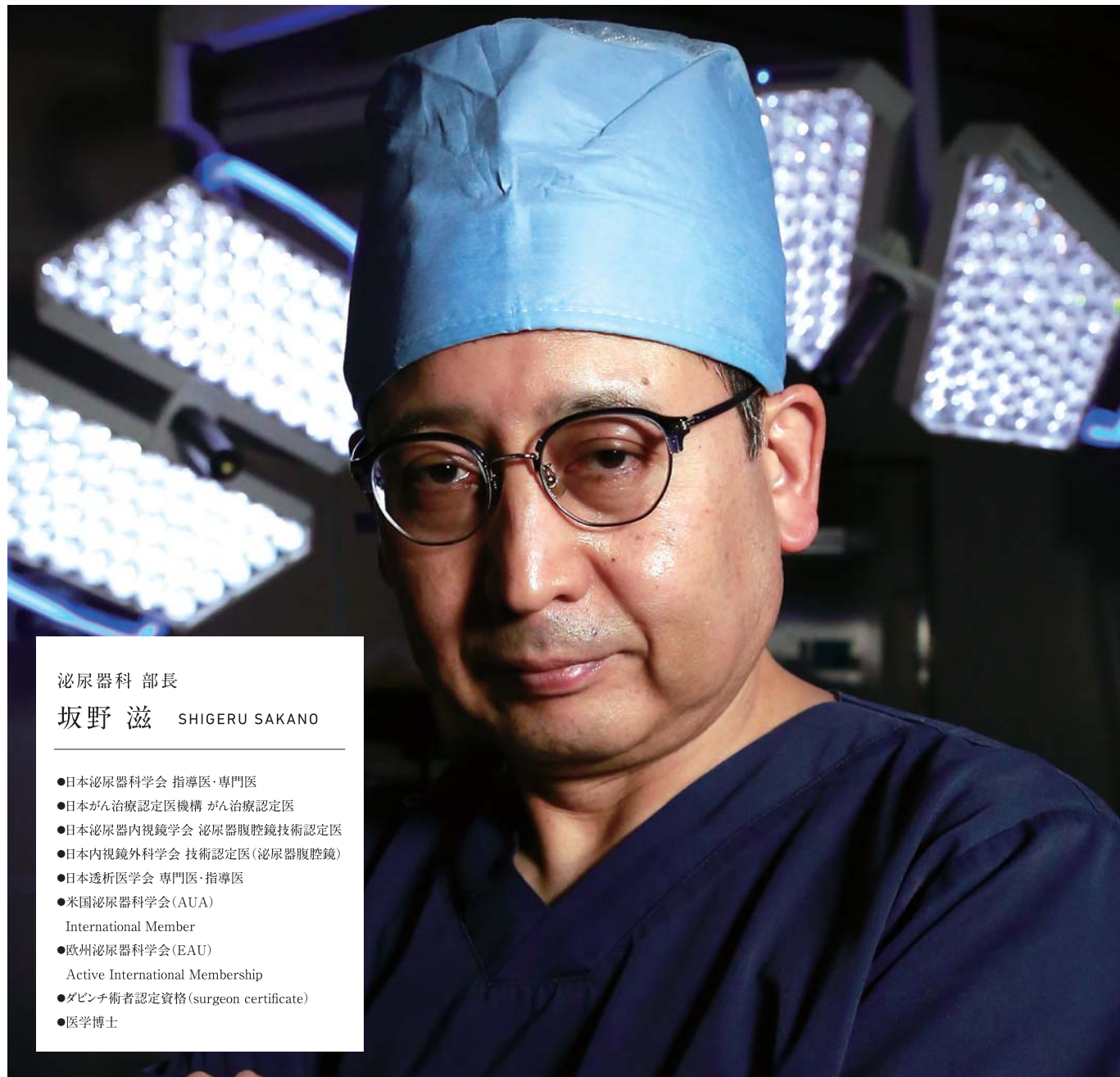


ロボット支援下手術 のラインナップ拡充

2020年9月に導入した手術支援ロボット「ダビンチ」ですが、
現在では前立腺がん、腎臓がん、胃がんだけでなく、
肝がん、結腸・直腸がん、肺がんとダビンチを用いて行うロボット支援下手術のラインナップが拡充し、
より多くの患者さんに低侵襲手術を提供できるようになりました。

daVinci

— 手術支援ロボット「ダビンチ」—



泌尿器科 部長
坂野 滋 SHIGERU SAKANO

- 日本泌尿器科学会 指導医・専門医
- 日本がん治療認定医機構 がん治療認定医
- 日本泌尿器内視鏡学会 泌尿器腹腔鏡技術認定医
- 日本内視鏡外科学会 技術認定医(泌尿器腹腔鏡)
- 日本透視医学会 専門医・指導医
- 米国泌尿器科学会(AUA)
International Member
- 欧州泌尿器科学会(EAU)
Active International Membership
- ダビンチ術者認定資格(surgeon certificate)
- 医学博士

UROLOGY

【腎センター】泌尿器科

前立腺がん・腎臓がん

ロボット支援下手術においては、精細で高画質の3次元画像を観察しながら、自在に動く鉗子を用いて、極めて複雑で繊細な手術操作が可能となり、がん治療としての根治性を高め、さらに出血等の合併症リスクを低減することができます。前立腺がん手術では、術後尿失禁や勃起障害の早期回復が期待できるようになります。腎臓がん手術では、腎血流遮断時間の短縮により、高いレベルでの腎臓機能の温存が可能となり、加えて従来では腎部分切除術が困難であった難しい症例にも、同手術の適応が拡大することが考えられます。





外科 主任部長

藤川 貴久

TAKAHISA FUJIKAWA

- 日本外科学会 指導医 専門医 認定医
- 日本消化器外科学会 指導医 専門医
- 消化器がん外科治療認定医
- 日本肝胆膵外科学会 高度技能指導医 評議員
- 日本内視鏡外科学会 技術認定医 認定医 評議員
- 日本臨床腫瘍学会 指導医 がん薬物療法専門医
- 日本癌治療認定医機構 暫定教育医 認定医
- 臨床研修指導医
- アメリカ外科学会正会員(F.A.C.S.)
- ロボット手術術者資格取得医
- 医学博士

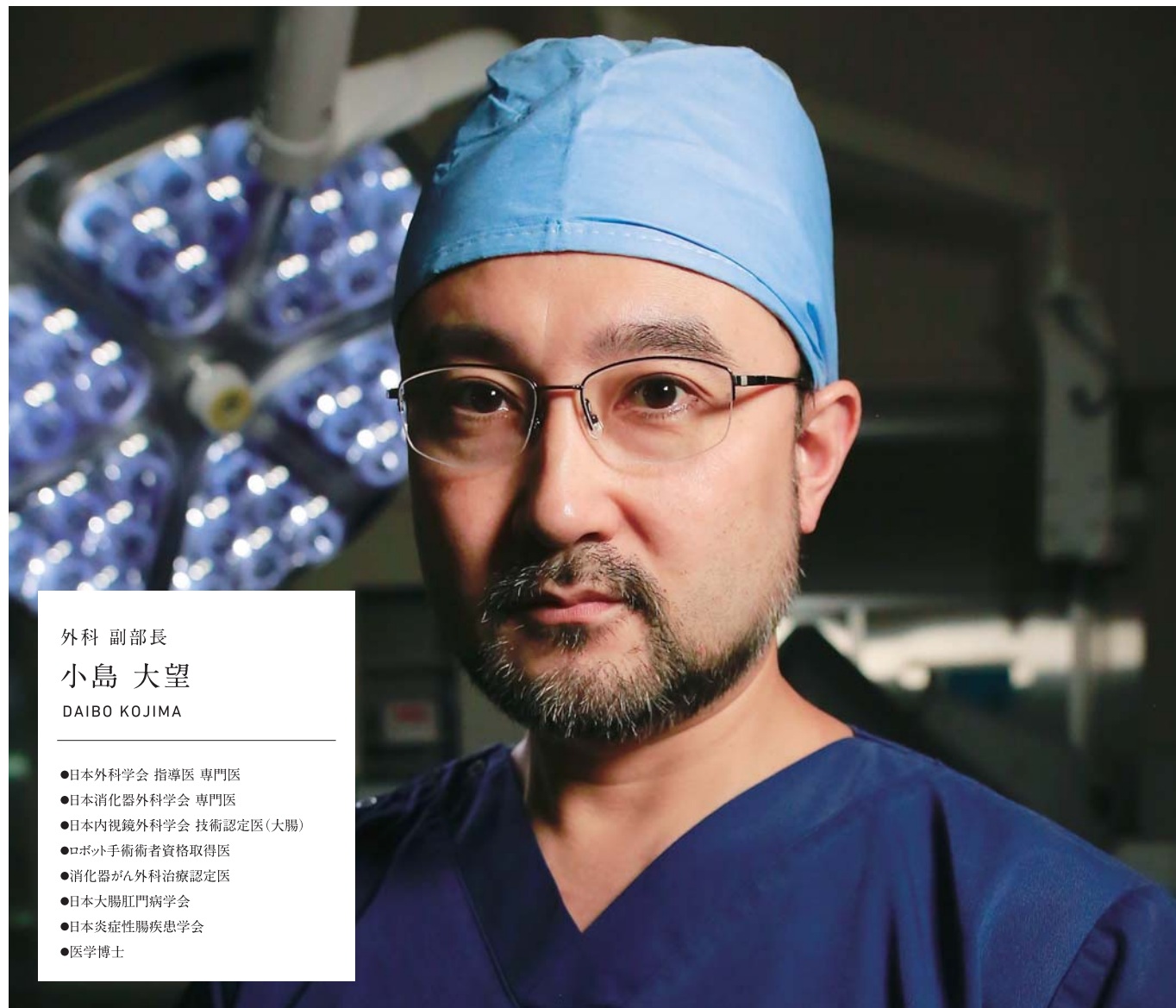
SURGERY

外科

肝臓がん

腹腔鏡下肝切除はこの15年で爆発的に普及し、ある一定の基準を満たした腫瘍背景と術者であれば、開腹手術に比べて、創部縮小のみならず、腫瘍学的根治性を失わずに出血量、合併症率、入院期間を低減できることが示されています。しかし一方で、技術的難度の高い術式、S7、S8、S1など頭背側領域腫瘍に対する術式、高難度解剖学的切除術式、脈管再建を伴う肝切除などは、腹腔鏡手術では定型化、標準化に至っていません。一方、ロボット支援下肝切除は新しい低侵襲肝切除のプラットフォームで、世界的にも最近アジア、イタリア、米国を中心に増加傾向にありますが、まだ一般化されておらず、日本でも最近保険収載されたばかりです。当院ではこの地域で先駆けて肝がんへのロボット支援下手術に取り組んでいます。





外科 副部長
小島 大望
DAIBO KOJIMA

- 日本外科学会 指導医 専門医
- 日本消化器外科学会 専門医
- 日本内視鏡外科学会 技術認定医(大腸)
- ロボット手術術者資格取得医
- 消化器がん外科治療認定医
- 日本大腸肛門病学会
- 日本炎症性腸疾患学会
- 医学博士

SURGERY

外科

結腸・直腸がん

「直腸切除・切断術」は2018年にロボット手術の保険適応になりましたが、2022年に「結腸悪性腫瘍手術」が保険適用となり、全ての大腸がんの患者さんに保険適用が拡大されました。直腸がんに対するロボット支援下手術は、ロボットの関節機能が最大限に発揮される狭い骨盤腔内での手術であり、確実な神経温存により性機能障害や排尿障害の予防に寄与します。また、肛門管内の剥離も良好な視野で行うことができるため、可能な限り肛門を温存することで患者さんのQOL(生活の質)向上に役立つことが期待されます。



外科 部長
河村 祐一郎
YUICHIROU KAWAMURA

- 日本外科学会 専門医 指導医
- 日本消化器外科学会 指導医 専門医 認定医
- 消化器がん外科治療認定医
- 日本内視鏡外科学会 技術認定医 評議員
- 日本食道学会 食道科認定医
- 日本胃癌学会
- ロボット手術術者資格取得医
- 医学博士

SURGERY

外科

胃がん

胃がん手術において、リンパ節の切除は治療成績の向上に重要な役割を果たしています。通常の腹腔鏡手術は、使用する手術器具がまっすぐで先端に関節がないために動きが制限され、残すべき血管やすい臓の周囲に存在するリンパ節をきれいに切除することは熟練を要する高度な手術手技となります。血管を傷つけることによる不必要な出血やすい臓を傷つけることによる消化液の漏れによる合併症は、胃がんの手術における大きな問題となります。ダビンチを使用することにより、より精度の高いリンパ節切除と合併症の軽減が可能になります。



呼吸器外科 部長

岡 壮一 SOICHI OKA

- 日本外科学会 専門医
- 日本呼吸器外科学会 専門医 評議員
- 日本がん治療認定医療機構 がん治療認定医
- 呼吸器外科専門医合同委員会 専門医
- ロボット手術術者資格取得医
- 日本呼吸器外科学会 胸腔鏡安全技術認定医
- 日本胸部外科学会
- 日本呼吸器内視鏡学会
- 日本肺癌学会
- 産業医ディプロマ
- 医学博士

THORACIC SURGERY

呼吸器外科

肺がん

これまで当院で肺がん手術を受けられる患者さんの多くが胸腔鏡下手術を受けられています。平均的には手術翌日には食事も歩行もできるまでに回復し、入院期間も短くなるのが特徴ですが、この低侵襲手術の進化形がロボット支援手術です。当科では肺癌（原発性・転移性）に対する肺葉切除術・区域切除術と縦隔腫瘍（良性・悪性）に対してロボット支援下手術を行なっています。肺がんに対するロボット支援下手術は、精緻な操作によって神経を温存した正確なリンパ節郭清が可能です。胸腔鏡手術よりさらに低侵襲で傷の痛みが少なく、術後の早期回復、退院が可能です。また、術後合併症が軽減することも報告されています。

